

レポーター：こちらは、港の絵ですか。

学芸員：はい、こちらは 19 世紀の中ごろの上海の港の様子を描いたもので、チャイナトレードペインティングの一点になります。

レポーター：へえ～、こちらもちやいなトレードペインティングなんですね。

学芸員：はい。

レポーター：お土産物にしてはずいぶん大きな絵ですけども。

学芸員：そうですね、当時の西洋人たちは船で行き来してたと思うんで、船便で持ち帰ったんじゃないかなと思われま。はい。たくさん建物が描かれてますけれども、一つ一つその時に本当にあった建物で、だいたい貿易会社の建物なんですけど、例えばこちらはイギリスの領事館であつたり、こちらの方は上海の税関の建物だつたりしてます。

レポーター：どちらかという、写真に近いような絵画になるんですね。

学芸員：そうですね。はい。

レポーター：でも、なんかちょっと見ると、建物に何となく違和感を感じるのは私だけですか。

学芸員：当時の西洋の油彩画の技術を使って描いてるんですけども、遠近法を使ってはいるんですが、ちょっとずつなんかずれてて、完全にその技術をマスターしてないところが、よく見るとあるんですね。そこがちょっと違和感を感じるんじゃないかなと思います。

レポーター：特にこの建物とかは、すごく斜めから見ているような。

学芸員：そうなんですね。ものすごく斜めから描いているのもあれば、正面からというものもあって、それがこう一緒に描かれていて、ちょっと違和感がありますね。

レポーター：それが味になって、何か見ている方もなんかかわいいなとか。

学芸員：そうですね、この時代のま、作品の特徴としてそういうところがありますね。

レポーター：この絵を見るとその当時が描かれているということは、その当時の様子とか感じることができるということですね。

学芸員：そうですね。上海がその当時、港がたくさん貿易でわいていたとか、人がたくさん集まっているところがわかると思います。

レポーター：アメリカの国旗があつたりイギリスの国旗があつたり、その当時中国はアメリカとイギリスと貿易をよくしていたということをあらわしているんですね。

学芸員：西洋美術の影響とま、もともとの中国の技法というのがちょうど組み合わせられた作品とっていいんじゃないかと思ひます。

レポーター：そうなんですね。